

知的障害者の不便さ調査

インタビュー調査のまとめと考察

平成13年3月

財団法人 共用品推進機構

個人賛助会員の会 東京会議 知的障害班

はじめに

財団法人共用品推進機構では、共用品・共用サービスを「身体的な特性や障害にかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品・施設・サービス」と定義し、共用品・共用サービスの普及活動を行ってきました。

この活動のための基礎情報を得ることを目的として、視覚障害者、聴覚障害者、妊産婦、高齢者、車いす使用者等の様々な障害のある人々を対象に、多くの「不便さ調査」を実施してきました。それらの不便さ調査から、共用品・共用サービスの必要性、どのような領域に共用品が必要なのか、といった多くの情報を得ることで、共用品・共用サービスの開発や普及に役立てています。

知的障害については、その特性により障害のある人からの声が届きづらく、また保護者や援助者といった身近な人々の人的な介助の中で、その不便さが見えづらくなっています。

知的障害のある人々が、安心して生活していくために必要な日頃の不便さの把握は、様々な身体特性の人への配慮を前提とした、共用品・共用サービスを考える上で重要な対象の一つと考えています。

そこで、これまで行われなかった知的障害を対象とした不便さの把握のため、知的障害のある人々の全体像を明確にするための準備段階の一つとして、この調査を企画実施しました。今後の本格的な定量調査の前段となる予備調査として、また共用品・共用サービスの開発や普及のために活かしていきたいと考えています。

この調査は、日本児童教育振興財団の平成12年度の研究助成により実施することができました。心から厚くお礼申し上げます。また、調査にご協力いただいた多数の方々に感謝を申し上げます。

平成13年3月

財団法人 共用品推進機構

理事長 鴨志田厚子

目次

はじめに

1 調査の概要	I
2 調査のまとめ		
(1) 質問内容	5
(2) 質問別まとめ	6
(2) 対象属性別まとめ	I5
3 考察	I7
4 今後の課題	23
5 調査回答		
(1) 知的障害者本人	27
(2) 保護者	33
(3) 援助者	43
参考資料		
福祉用具の配慮	49

1 調査の概要

1 調査の概要

(1) 背景と目的

「知的障害」とは、人間の発達時期（0歳～18歳の間）において、脳に何らかの障害が生じたために、「考えたり、理解したり、感情をコントロールしたり、話したり、書いたりする」など知的な能力やコミュニケーションに障害が生じることです。以前は「精神遅滞」、「知恵遅れ」、「発達遅滞」等の言葉が使われましたが、最近になって当事者の意見も取り入れられ、日本でも1994年4月から「知的障害」という言い方が法律でも認められ一般的となりました。

知的障害者は、日本全国で約41万3,000人います。（人口の約0.3%。1995年の調査）しかし、特に障害と法的に認定される程度ではなく、一般社会の中で働き生活している人も数えると、その約10倍（全国で410万人）の人がいるともいわれています。

障害の原因としては、よく「遺伝」と考えられますが、実は遺伝は意外に少なく、大部分は胎児期や出産前後に受けた脳の障害が原因です。

1 先天的な原因

- ・ 遺伝
- ・ 胚種損傷
- ・ 染色体異常＝突然変異（ダウン症候群等）
- ・ 脳障害（感染、中毒、酸欠、物理的損傷、血液型不適合、出産時障害、未熟児等）

2 後天的な原因

- ・ 乳児期の脳障害によるもの（病気、感染、けが、中毒、脳炎、ホルモン異常等）

知的障害は一見したところ外見からはわかりにくい障害であり、また、その障害の特性が故に、知的障害者自らが自分の不便さを認識してそれを言語化し、外部に訴えることが他の障害に比べてなかなかうまくできませんでした。そのため、今までなかなかその不便さが社会に理解されることなく、不便さの調査においても未だ未開拓の領域であるのが実態です。

本調査は、知的障害者の不便さを把握する、定量調査を行うための予備調査と位置付けています。今後、知的障害者が日常生活において、どのようなことで不都合や不便さを感じているか、その実態を把握し定量的に明確化することで、他の障害のある人や健常者にとっても使いやすい共用品・共用サービス化を図るための、ガイドラインの基礎的なデータとなることを目的としています。

1 調査の概要

(2) 調査対象

知的障害者の、日常生活の不便さを広く集めるため、知的障害者と、その生活を支える関係者として、保護者、及び援助者を対象としました。

1 知的障害者 5名(5名×1組)

日常生活での自分自身の不便さ、及び本調査の目的を理解し、このテーマについての話し合いが可能な知的障害者。

男性：2名、女性：3名

障害の程度：療育手帳4度(軽度)×5名

年齢：20代～30代前半

企業就労：3名、作業所通所：2名

2 保護者 10名(5名×2組)

地域の生活と接点を持ち、養護学校中等部以上の知的障害者の保護者。

5名は自閉症を伴う知的障害を持つ子供の親

母親：8名、父親：2名

(子供 男子：8名、女子：2名 年齢：10代1名、20代7名、30代2名)

企業勤務：1名、福祉施設通所：6名、福祉入所施設：1名、在宅：1名、学校：1名)

3 援助者 3名(3名×1組)

知的障害者が日常的に通う、作業所や授産施設等の職員。

男性：2名、女性：1名

通所授産施設の援助職員、通所更生施設の援助職員、通所授産施設の施設長

知的障害の程度については、判定基準によって主に4つの程度に区分されていますが、国内で統一された基準がありません。そのため、自治体によって異なる判定基準が設定されています。次頁に東京都の判定基準(愛の手帳)を紹介します。

知的障害の程度の判定基準（参考例）

出典「精神薄弱の障害程度判定基準—成人基準」／東京都

	1 度（最重度）	2 度（重 度）	3 度（中 度）	4 度（軽 度）
知能測定値	知能指数および、 それに該当する指数 がおおむね 0～19のもの	知能指数および、 それに該当する指数 がおおむね 20～34のもの	知能指数および、 それに該当する指数 がおおむね 35～49のもの	知能指数および、 それに該当する指数 がおおむね 50～75のもの
知能能力	文字、数の理解力 の全くないもの	文字、数の理解力 の僅少なもの	表示をある程度理 解し、簡単な加減が できるもの	ラジオ、新聞等を ある程度日常生活に 利用できる 給食等の処理ができ るもの
職業能力	簡単な手伝いなど の作業も不可能なも の、とくに成人につ いては、職業能力が ないもの	簡単な手伝いや使 いは可能なもの、と くに成人については、 庇護された環境のも とで単純作業が可能 なもの	指導のもとに単純 作業が可能なもの、 とくに成人につい ては、指導のもとに自 分の労働により最低 生活が可能なもの	単純な作業が可能 なもの、とくに成人 については、自分の 労働により最低生活 が可能なもの
社会性	対人関係の理解の 不能なもの、とくに 成人については、社 会生活の不能なもの	集団的行動のほと んど不能なもの、と くに成人については、 社会的生活の困難な もの	対人関係の理解お よび集団的行動があ る程度可能なもの、 とくに成人につい ては他人の理解のも とに従属的社会生活が 可能なもの	対人関係大体良く、 集団的行動がおおむ ね可能なもの、と くに成人については、 従属的な立場での社 会生活が可能なもの
意思疎通	言語がほとんど不 能なもの	言語がやや可能な もの	言語が幼稚で文通 の不可能なもの	言語および簡単な 文通が可能なもの
身体的健康	特別の治療、看護 が必要なもの	特別の保護が必要 とするもの	特別な注意が必要 なもの	正常でとくに注意 を必要としないもの
日常行動	日常行動に異常お よび特異な性癖があ るため特別の保護指 導が必要なもの	日常生活に異常が あり、常時注意と指 導が必要なもの	日常行動に大した 異常はないが、指導 が必要なもの	日常生活に異常が なく、ほとんど指導 を必要としないもの
基本的生活	身辺生活の処理が ほとんど不可能なも の	身辺生活に処理が 部分的にしか可能で ないもの	身辺生活の処理が 大体可能なもの	身辺生活の処理が 可能なもの

1 調査の概要

(3) 調査方法

グループインタビューによる聞き取り調査

調査対象の3属性毎に3～5名のグループをつくり、担当者が対象者の普段の活動の場を訪問し、アンケート形式で質問し、直接話し合いを行いました。

(4) 調査日程

対象毎に以下の4回に分けて、約2時間のグループインタビューを行いました。

1	平成12年10月26日	／	直接援助者	3名
2	平成12年11月9日	／	保護者	5名
3	平成12年12月13日	／	保護者	5名
4	平成12年12月21日	／	知的障害者	5名

(5) 調査主体

財団法人 共用品推進機構

(6) 調査担当

財団法人 共用品推進機構 個人賛助会員の会 東京会議 知的障害班
加藤完治・後藤明宏・坂田明子・平賀美智子・矢澤潤一

(7) 調査協力

社会福祉法人 武蔵野 知的障害者通所授産施設 ワークセンター大地
社会福祉法人 武蔵野 知的障害者通所更生施設 デイセンター山びこ

2 調査のまとめ

2 調査のまとめ

(1) 質問内容

日常生活の経験から、広く不便さを話してもらうことを考慮して、大きく家の外と中に分けて、詳細な行為や場所を規定しない質問としました。家の外については、社会との接点として「交通手段での不便さ」、「移動中の不便さ」、「目的地での不便さ」、「不便な場所」、「一人の行動中の不便さ」の5つ場に区分しました。また、具体的な配慮の参考として「知的障害のある人にとって便利なもの」と「特に不便で改善して欲しいもの」を質問しました。

家の外での不便さについて

- Q.1 「日常で利用する交通手段での不便さは何ですか？」
- Q.2 「交通手段で移動中の不便さは何ですか？」
- Q.3 「移動した先の目的地での不便さは何ですか？」
- Q.4 「不便な場所はどこですか？」
- Q.5 「一人で行動する時の不便さは何ですか？」

家の中での不便さについて

- Q.6 「家の中での不便さは何ですか？」

便利なもの

- Q.7 「とても便利だと感じるものは何ですか？」

特に不便なもの

- Q.8 「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

その他

- Q.9 「その他に不便さを感じるものは何ですか？」

(2) 質問別まとめ

Q.1 「日常で利用する交通手段での不便さは何ですか？」

・割引き運賃と切符の購入

交通機関は、障害者割引きとして半額扱いとなるが、バス、電車共に事業者によって、運賃の支払いや精算方法が異なる。子供料金と同じ扱いになる場合も多い。プリペイドカードは割引きで利用ができない。

同じ事業者でも駅毎や人によって対応が異なることもある。窓口での対応にトラブルが多い。

・定期券の障害者マーク

定期券に割引き対象の識別のため、目立つ印が入る。

・広告バス

利用したいバスの識別を妨げる。逆に、こだわりの対象となり、好きなバスに乗りたくなる。

・案内表示

バスや電車の行き先、駅名等の表示の理解が難しい。案内板の漢字が読めない。ひらがなの表示が欲しい。

割引き運賃での交通機関の利用に関わる不便が多くあげられています。割引きを積極的に利用しなくても、プリペイドカードは割引きの対象外だったり、事業者側の対応の統一性の無さが利用の不便さとなっています。又、駅員とのコミュニケーションがうまくできないことも、積極的な利用を妨げています。駅員側にも知識や対応の徹底が必要です。

定期券の障害者の識別表示や券売機や改札で子供料金と同じ扱いになる等、障害が外観だけで判断しづらいことから、識別のための過剰なレッテルに心理的な負担を感じています。

広告バスについては、路線やバス毎に色が変わるために、色彩でのわかりやすい識別ができなくなり、混乱してしまうという意見も多くありました。

Q.2 「交通手段で移動中の不便さは何ですか？」

- ・好きな広告のバスに乗りたい。
 - ・好きな席に座りたい。
 - ・好きな乗物に乗り続けたい。
 - ・車内を歩きまわる。
 - ・待つことが苦手。
 - ・降車ボタンを押すタイミングにこだわる。
 - ・いちいち声を掛ける。
 - ・非常ボタンを押してしまう。
-
- ・駅の改札がしまってしまうので怖い。
 - ・事故に巻き込まれても、弁明できない。
 - ・不注意でホームの隙間に落ちる。
 - ・人に突き飛ばされてしまう、人を転落させないか心配。
 - ・何かあっても、後から偶然わかることが多い。
 - ・警察から質問されて問い合わせがあった。

特有のこだわり等によって、結果的に社会的なマナーが守れないために、周りの人間関係が困難になることがあげられます。保護者や援助者にとっては、周りに「迷惑をかける」ことへの配慮が必要となっています。

周辺状況に対応した適切な動作が難しいことから、知的障害による身体障害と同様の不便さも多くみられ、結果として事故に結びつく危険性が高い不便さとなっています。

Q.3 「移動した先の目的地での不便さは何ですか？」

Q.4 「不便な場所はどこですか？」

(目的地、及び場所については、不便さが共通する部分が多いため一つにまとめた。)

- ・自閉傾向ゆえにその場の人と溶け込むことができない。奇声を上げる。
- ・映画の暗い状況が怖くて声を上げた。
- ・気兼ねないコーナーがあるとよい。
- ・赤ん坊がいる所（声が嫌）。
- ・親といっしょだと窮屈。
- ・トイレに入って中からかぎをかけて出てこられない（あるいは出てこない）。
- ・トイレ、プールの着替えなどの介助に異性の介護者が入れない。
- ・レストランで声が大きく周りに迷惑がかかる。
- ・ホテルの部屋のオートロックを間違えて入れなくなる。
- ・店員のマニュアルどおりの対応で質問されて困った。
- ・デパート、スーパーなど通路が狭いところで立ったままいてお客のじゃまになったりする。
- ・表示など統一されたデザインにしてほしい。
- ・公衆電話が少なくなった。
- ・職場で話し相手がいない。
- ・食堂で、醤油やソースなど適量がわからず入れ過ぎたりしてしまう。

その場の状況に適応することができず、適切な行為ができにくいことによる不便さが、特徴としてあげられます。その場所で起きる刺激（例えば赤ん坊の声）が混乱を招いたり、また、その場所に要求される暗黙のルール（例えばコンサート会場での静けさ）が理解できないため、時に不適応な行為をしてしまいます。

また、場所に備わる器具や道具類（トイレの鍵、ドアのオートロック、表示のデザイン、調味料の適量等）に、使いにくい、理解しにくい等の不便さがあります。

公衆電話については、目的地に着いたら、公衆電話で家族や教師等に連絡する訓練を学校でよく行っていることから意見が出たと思われます。

知的障害は、身体障害と比べて見た目には分かりにくいために、誤解や偏見による不便さも多くなります。

Q.5 「一人で行動する時の不便さは何ですか？」

・バス、鉄道

混雑時、運転手に触られるなどの嫌がらせを受けた。

駅員の対応がよくない、説明が不十分。

バス会社に苦情の電話をしたが、まともにとりあってもらえなかった。

運転手に「バス乗車割引証」を見せたら、「(障害かどうか)わからないから手帳の写真を見せる」と言われた。

・お金の管理

電車の切符が買えずに家に戻ってきた。

自分でしっかりとしまうことが難しい。

お金を多く持たせると全部使ってしまう 無くても商品を予約してしまう。

数人でまとめて払うことがむずかしい(計算)。

・その他

待ち合わせができずに一日つぶしてしまった。

行方不明が一番困る。

誰かに聞かないと解決できないことが多い、家族以外への問い合わせが必要。

(宗教などの)勧誘が心配。

一人で出掛けることはない、迷惑をかけるので外に出させない。

表現することの不自由さから、トラブルに直面した時のコミュニケーションの不便さが多くあげられます。障害者本人の不自由さと環境の不便さの接点となることから、双方の不便さが原因となっています。特に、他の交通機関に比べ、よく利用されているバスについての不便が多くみられます。また、お金の管理に関する事例が多く、お金をひとりで使いこなすには、計算の他に「選ぶ」「予算を考える」等の、多くの理解が必要なため、ひとりですべてを管理するのは難しく、不便を感じるようです。その他に、「ひとりで出掛けることはない」「話ができない分安心」等、不便さに至る以前の周りの行動制限も知的障害に特有と考えられます。

Q.6 「家の中での不便さは何ですか？」

・生活全般

良い悪いを言うことができないため、周囲に分かるような意思表示が苦手。
時計を読むことができないため、時間がわからない。

・衣生活

季節や気温に合わせた衣服選びや調節ができない。
衣服の前後の区別がわからない。
ボタンやひも結びが難しい。
大人用で、ウエストにゴムが入ったズボンが少ない。
靴の左右が分かりにくい。
足に合っているかどうか分からず、ぴったり合った靴が買えない。
靴のつま先をすぐ駄目にしてしまう。

・食生活

のどが渴いているとき、トイレ用洗剤を飲もうとした。
食事やおやつ、飲料など、適量が分からない。

・住生活

風呂でつかまるものが無く、立ち上がりにくい。
何度も風呂に入ってしまう。
洗浄便座が使えない。水を出し続けてしまう。
掃除機の音を嫌がる。
かまわずあちこち電話をしてしまう。
自分一人で家に居るとき、集金・宅急便・セールスなどが来ると、不安になる。
カセットデッキの操作が複雑で、よく分からない。
ビデオは見られるが、録画できない。
家の電話が新しくなったら、使えなくなってしまった。
ワープロのローマ字が難しい、字がどこにあるか探しにくい。
インターネットをやってみたいが、料金が不安。
オープンレンジは、オープンとレンジの切り替え方が良く分からない。

家電製品のマニュアルが難しい。

・健康衛生

耳搔きを怖がる、安全な良いものが無い。

髭剃りがうまく出来ない。

シャンプーとリンスを間違える。

シャンプーや歯磨きの加減がわからず、使いすぎる。

保護者の視点からは、知的障害者の持つ、理解力不足やコミュニケーション能力不足による不便が多くみられました。各々の家庭で、過ごしやすく配慮していることを考慮すると、語られなかった不便さが、まだまだあるように思われます。

知的障害者自身の視点では、一人で居るときの不安が印象的です。カセットデッキ・ビデオデッキ等の家電製品・携帯電話・ワープロの操作が難しく、使っている人も、使い方やマニュアルに不便さを感じています。

Q.7 「とても便利だと感じるものは何ですか？」

・携帯電話

いつでも使える便利さ。待ち合わせなどに重宝している。反対に、「どこにいてもつかまるとは嫌。」という意見もある。

・バスカード

「硬貨を用意しなくてもバス料金が支払える。」、「バスカードによる支払は気が楽。」という意見があった。また、逆に軽度の知的障害者の中には障害者手帳の提示に抵抗がある人もいた。

・天井が高い、または個室があり周りに気兼ねのいらぬレストラン。

・テーマパークでアトラクションを、並んで待たなくても良いサービス。

・オートダイヤルのテレホンカード

自動的に登録先の番号につながるため、ダイヤルする必要がない。番号がわからない、あるいは番号はわかるけれどダイヤルができなくても自宅等に連絡が可能になる。

2 調査のまとめ

・マジックテープの靴やウエストがゴムのズボン

・ファミリーレストランやファーストフードの写真付きメニュー

文字の理解や発語がない人でも、メニューを見て指を差すことで、自分で選択して決めることができる。

・携帯電話の位置検索サービス

携帯電話を所持する人の位置を、近隣の基地局間で絞って検索し、FAXによって情報提供するサービスによって、保護者や援助者が、携帯を持つ知的障害者本人の行方を知ることができる。

・コミュニケーション通訳のような存在

手話通訳の知的障害者版が必要。特に軽度の知的障害者は、単語の読み書きはできるが、その単語の意味を理解できず、結果的に話が理解できない場合がある。例えば試験などでも、「単語の意味さえわかれば回答できるが、ただ書かれている文章だけ読んだら回答できない。」という意見もある。

携帯電話の普及は、「いつでも連絡を取れる」便利さと、軽度の知的障害者が自分の意思で能動的に行動することを可能にしたことで、自らの社会を広げています。

レストランやテーマパークのサービスでは、「大きな声をあげてしまう」「待つことが苦手」等の障害の特性によって使用や参加が困難だった場所に、行きやすくする配慮がされています。

オートダイヤルやマジックテープは、複雑な手順やある概念の理解が必要なことに対し、それをしなくても使えるようにわかりやすくしています。

写真付きメニューは、視覚的にわかりやすい具体的な提示がされているので、指差しによる簡単な選択がしやすくなっています。

Q.8 「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

・各交通機関のサービスの統一、障害者料金の明示

各交通機関の割引適用の方法や対応が事業者ごとに違ったり、あるいは障害者料金や購入方法が明示されていないことから使いにくい。

・自動改札口の矢印の方向の統一

進行方向の矢印が「上」を向いていたり「横」を向いていたりして、わかりづらい。

・サインの統一

ピクトグラム等のサインの表示が、場所によって表示方法が共通でないためにわかりづらい。

・バスの行き先や駅名表示

漢字で書かれていると知的障害者にはわかりにくいので、ひらがなで表記してほしい。また、駅名などは見落としやすいので、大きな文字にしたり、わかりやすくしてほしい。

・介護ができるトイレ

外出先で「母親が娘の介助をする」といった、同性の介護の場合には大きな問題はないが、「母親が息子の介助をする」といった異性の介護をする場合には、通常のトイレでは難しい。各所で障害者用トイレの設置をしてほしい。

・携帯電話の特定使用制限

携帯電話は料金がかさんでしまうため、緊急の連絡先以外の電話番号については、使用制限を設ける等の、使い分けができるようになれば良い。

・携帯電話の操作方法

ボタンの長押しや組み合わせによる機能等、操作方法がわかりにくい。また、機種ごとに操作方法が違うこともわかりにくい。

バスや駅での対応の問題や対応の不徹底や統一されていない等、物的なサービスではなく、人的なサービスの不便さが多くありました。特に障害者自身からは、「手帳を見せるだけでは割引をしてくれず、『すみません』と声をかけなければやってくれなかった」「バス乗車時に乗車割引証を見せたら、『手帳を見せろ』といわれた」「駅員に駅からの道順を尋ねたがわかりづらく、再度聞きに行っ

2 調査のまとめ

「怒鳴られた」等の、多数の意見があげられました。割引の規定を交通機関の事業者がよく理解していないことや、知的障害に対する理解の不足による、不十分な説明や言葉の対応が原因と思われる。

交通機関や街中では、表示方法の不統一や表示内容のわかりにくさが指摘されています。

携帯電話の普及によって、知的障害者の生活が広がった反面、簡単に使用できるがゆえに、すぐに料金がかさんでしまうというデメリットもあるようです。使用頻度によって料金が加算されていくことは、具体的には認識しづらいので、制限ができるような配慮が必要です。

(3) 対象属性別まとめ

知的障害者

自身で「不便さ」を判断し、それをさらに言葉で表現することが難しく感じられました。周りから一見して不便そうに見えることでも、自ら表現しづらいのではないかと考えられます。

「不便さ」という概念自体が、知的障害のない人自身が強く持つ感覚でもあるようにも感じられました。また、自分のできる範囲内で行動することが多いために、「不便さ」を感じる手前の段階であることも多くありました。例えば、ビデオデッキの操作が難しそうな場合、ビデオデッキには触らないために、「不便さ」を感じるまで到達しないこと等が挙げられます。また、グループインタビューという場で周囲が気になるためか、あるいは緊張のためか、本当は不便に感じているけれど、「〇〇で困っている」とは言い出しにくい雰囲気もあったのではないかと考えられます。

保護者

不便に思っていることや、困っていることは多いはずなのですが、「代わりにする」ことや「手伝う」ことが日常的になっているために、改めて不便さや不自由さを質問されても、ことさらには意識していない人が多くみられました。これまでの経験や保護者としての立場（何かあったら困る、責任がある）もあり、障害者自身が自分で判断することを、シャットアウトしている様子も見受けられました。

また、グループインタビューという場で、知的障害者本人と同様に、言い出しにくい雰囲気もあったかのではないかと考えられます。

援助者

複数の知的障害のある人を相手にしている上、「不便さ」や「困っていること」を補ったりサポートしたりすることが仕事でもあるため、知的障害のある人が困っていることを客観視して、解決の具体策までの解答が多くみられました。

3 考察

3 考察

「調査のまとめ」での報告のように、今回のグループインタビューを通して、様々な不便さが報告されました。内容は多種多様ですが、各々の不便さが、どのような特徴を持ち、どのような共通性があるのかを考察しました。多くの「不便さ」については、その要因として、主に以下の5つ特徴が考えられます。

「本人」の不自由さに起因する不便さ

知的障害の特徴である、理解力、判断力、推理力といった本人の知的能力により「理解すること」と、自分の意思を伝える「表現すること」の不自由さに起因する不便さが考えられます。

1. 「理解すること」に起因する不便さ

- ・電話やワープロの操作、カセットデッキ等の使い方がわからない。
- ・家電製品のマニュアルの理解が難しい。
- ・洗浄便座の使い方がわからない。
- ・ドアの鍵の方法がわからない。
- ・オーブンとレンジの識別が難しい。
- ・シャンプーとリンスの識別が難しい。
- ・飲み物の識別が難しい。
- ・ボタン付けやひも結びが難しい。
- ・醤油やソース等の差し加減が難しい。
- ・食べ物の適量が難しい。
- ・気候に応じた衣服の調整が難しい。
- ・靴の左右、サイズの調整が難しい。
- ・時計が読めず時間がわからない。

2. 「自分の意思を伝えること、表現すること」に起因する不便さ

- ・かまわずあちこちに電話をする。
- ・集金、宅配、セールスへの対応が不安。
- ・店員からの質問に答えられない。
- ・奇声をあげる。
- ・事故にあった時に適切に答えられない。
- ・一見して障害者と見られず注意を受ける。

- ・バスに乗る時に障害者と見られず、職員からぶしつけな対応を受ける

「社会」に起因する不便さ

「本人」の不便さに対し、もう一方の不便さとして、「本人」を取り巻く「社会」をつくる「環境」と周り人の「心」に起因する不便さが考えられます。

3. 「環境」に起因する不便さ

- ・バスや電車、案内板の表示がわからない。
- ・交通機関や町の中の案内表示の不統一、漢字等の表示による難しさ。
- ・割引き等の障害者サービスが統一されていない。
- ・全面広告によってバスの識別が難しくなった。
- ・社会的ルールの理解が難しい。

(非常ボタンは押さない、コンサート会場、映画等では静かにする、店内の狭い通路では人が通れるように配慮する等。)

4. 「心」に起因する不便さ

- ・まわりに嫌な顔をされる。
- ・職場で話し相手がいない。

「本人」と「社会」の関わりに起因する不便さ

「本人」の不便さと「社会」の不便さが要因となって、知的障害者の実際の生活の中で、2つの不自由さが重なり合った時に、様々なトラブルが生じます。「生活」の不便さは、人とのコミュニケーションをとる上で、更に困難な不便さを作り出していると考えられます。

5. 「生活」の不便さ

- ・レストランや映画館で声をあげて他の客の迷惑となる。
- ・店内の狭い通路で立ちふさがり、他のお客のじゃまになる。
- ・電車の中で女子高生の腕時計を触ろうとして痴漢と間違えられそうになる。
- ・電話代で多大な請求が来る。
- ・非常ボタンを押して注意される。

不便さの構造と配慮の試案

本人と環境における4つの不便さの視点を踏まえて、知的障害者を取り巻く不便さの構造を検討するため、本人の立場から見た不便さを「バリア」と例え直し、以下の5つのバリアとその関係性を想定しました。

1. 理解のバリア

2. 表現のバリア

3. 環境のバリア

4. 心のバリア

5. 生活のバリア

「1. 理解のバリア」と「2. 表現のバリア」は、個人の能力の視点から見たバリアです。外界の情報を読み取り理解すること、そして、自分の意思や気持ちを表現し相手に伝えることに、本人が大きなバリアを持っています。

「3. 環境のバリア」は、社会のしくみや設備、制度等の生活環境の視点から見たバリアです。

「4. 心のバリア」は、誤解や無理解、あるいは偏見といった周りの人が持つバリアです。

「1. 理解のバリア」や「2. 表現のバリア」を持った本人が、様々な要素を持つ「3. 環境のバリア」や「4. 心のバリア」に関わる時に起きるトラブルが、「5. 生活のバリア」と考えられます。

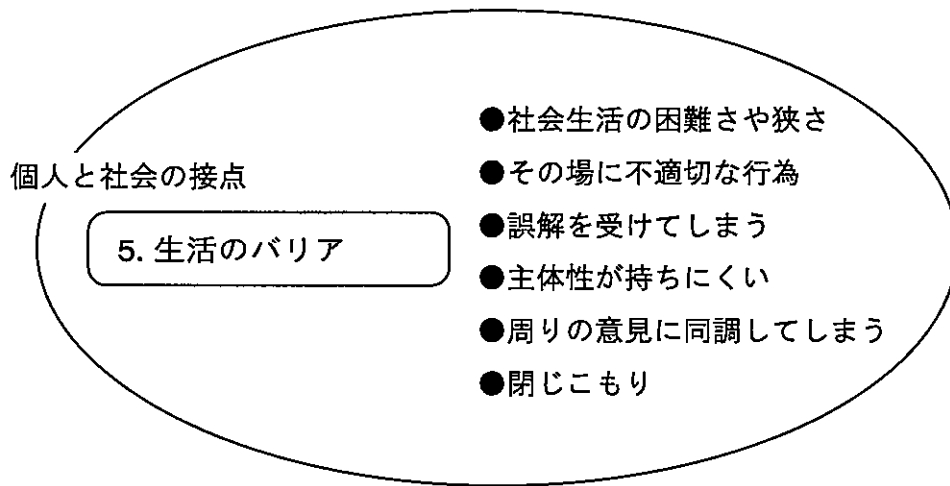
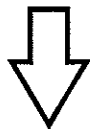
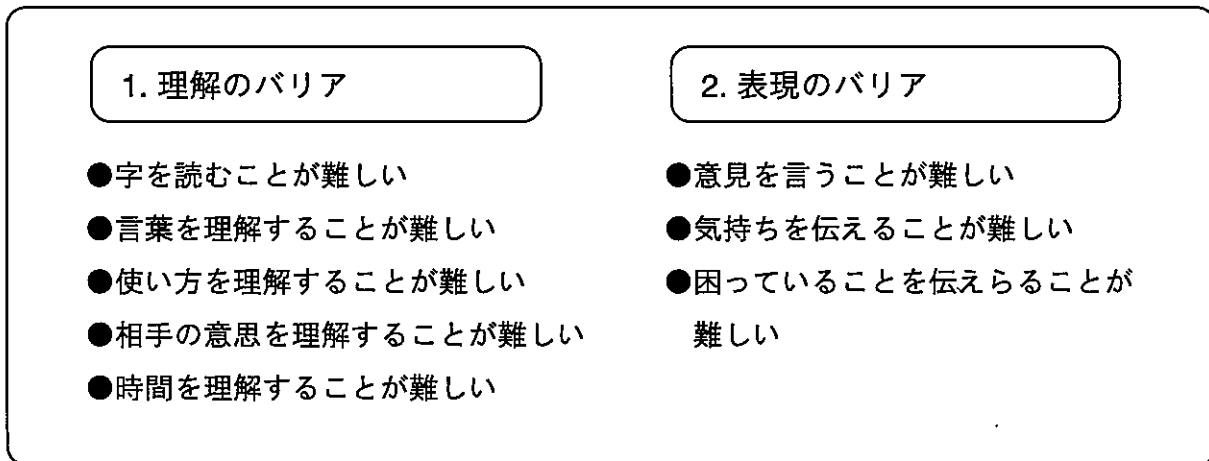
(次頁の図1を参照)

知的障害者が日々感じる「不便さ」は、各々のバリアが相互に影響する、複合的な現象として現れてくると考えられます。各々の「不便さ」を類型化した「バリア」の要素に分析することによって、より現実的で具体的な対応策がたてられるのではないかと考えられます。(次頁の図2を参照)

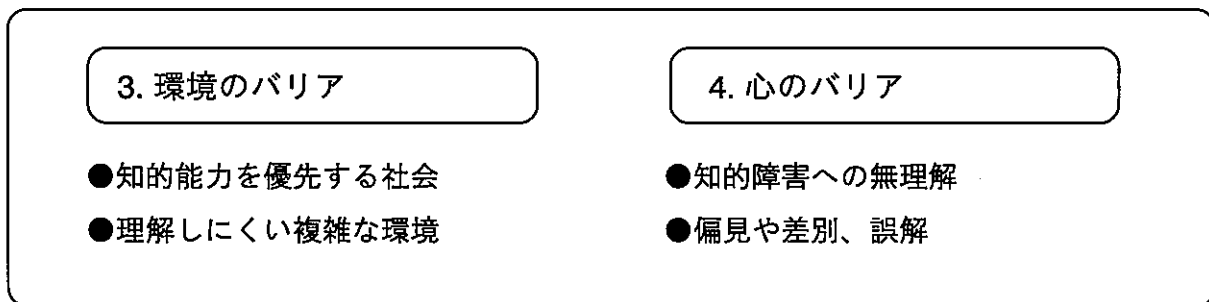
今後、詳細な不便さ調査を行うにあたって、このような類型化された要素にポイントを置いて質問、分析を行うことによって、知的障害という特性をより配慮した、効果的な調査を行うことができると考えられます。しかし、このバリアの要素の類型化は、今回のインタビュー結果を踏まえた仮説にとどまっています。そのため、今後、具体的に実証されていくべき実践的な仮説として考えています。

不便さへの配慮の試案 (図1)

本人

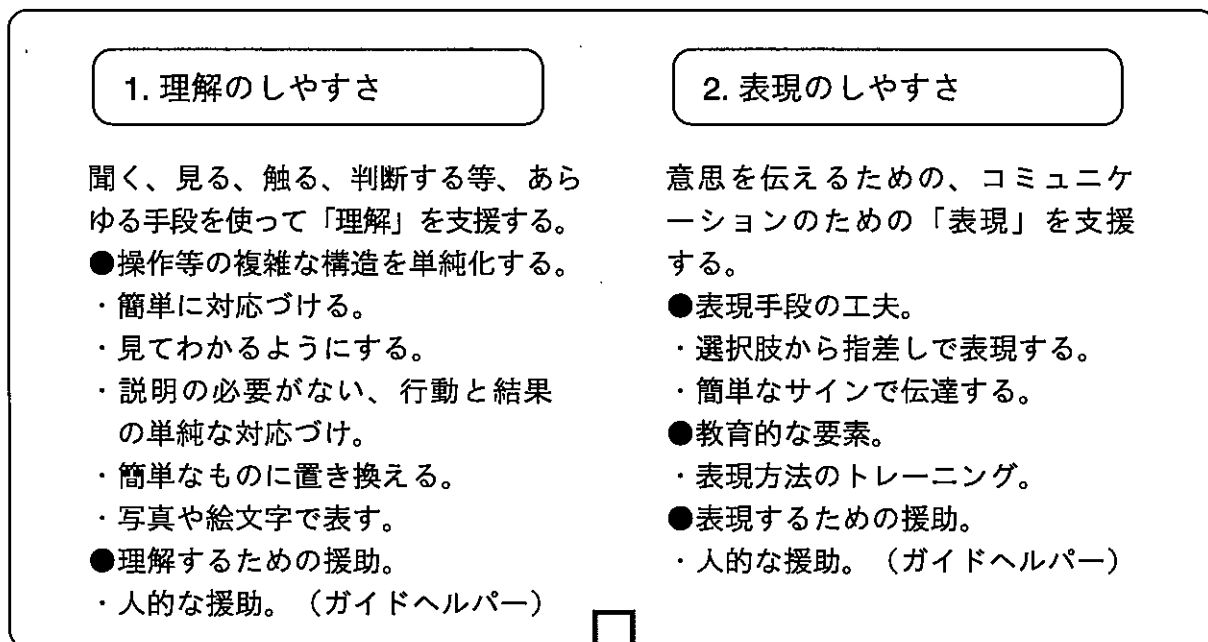


社会



不便さへの配慮の試案 (図2)

本人



1. 理解のしやすさ

聞く、見る、触る、判断する等、あらゆる手段を使って「理解」を支援する。

- 操作等の複雑な構造を単純化する。
 - ・簡単に対応づける。
 - ・見てわかるようにする。
 - ・説明の必要がない、行動と結果の単純な対応づけ。
 - ・簡単なものに置き換える。
 - ・写真や絵文字で表す。
- 理解するための援助。
 - ・人的な援助。(ガイドヘルパー)

2. 表現のしやすさ

意思を伝えるための、コミュニケーションのための「表現」を支援する。

- 表現手段の工夫。
 - ・選択肢から指差しで表現する。
 - ・簡単なサインで伝達する。
- 教育的な要素。
 - ・表現方法のトレーニング。
- 表現するための援助。
 - ・人的な援助。(ガイドヘルパー)

個人と社会の接点

5. 生活のバリアフリー

社会

3. 環境のバリアフリー

地域社会に参加し、生活しやすい「環境」をつくる。

- 社会活動(共に遊ぶ、学ぶ、働く、住む等)のできる生活環境を整備する。
 - ・もの、建物、アクセス、コミュニケーション、サービス等への配慮。

4. 心のバリアフリー

障害を理解し、偏見や差別を取り除く。

- 障害の実態と不便さの配慮を理解する。
 - ・目に見えない障害を理解する。
 - ・表現を理解しようとする努力。
- 社会的な制度を改善する。

4 今後の課題

4 今後の課題

調査方法の困難さ

今回のインタビュー調査では、知的障害という障害の特性ゆえに調査方法そのものの困難さを実感しました。知的障害は、障害のありようが多様で、個人差も大きく、幅も奥行きもある障害といえます。その不便さもまた多種多様です。主に「理解すること」や「表現すること」に大きな障害を伴うために、「不便」であることを理解し、表現することにバリアを持っていると考えられます。

そのため、今回の調査においても、知的障害者本人からのインタビューは表現力のある方のみのお返事となり、それ以外は、障害者の立場をよく理解していると想定される、家族や援助者による代弁者としてのインタビューという形となりました。

知的障害者の真の、そして客観的なニーズを知る方法については、援助専門家の間でも試行錯誤の状況にあるのが現状です。従って、今回の調査結果は、あくまでも容易に表面に出やすいほんの一部の「不便さ」の内容であり、その真のニーズは、水面下の氷山のように、未だその多くが隠されていると理解することが妥当だと考えられます。

本格的な定量調査に向けて

今回の調査では、知的障害を把握することの困難さとして、障害の多様さと個人差が大きいこと、他の障害と違い、障害者自身が自らの「不自由さ」や「不便さ」あるいは「〇〇を改善してほしい」という要求を発言することが難しいことがわかりました。更に、その不便さを解消する方法は、車いす使用者のアクセスを可能にするスロープやエレベーターのような、明解で具体的な配慮の方法が必ずしもあてはまらないこともわかりました。

今後の調査では、知的障害が他の障害と比べ、正しい理解をされにくいことや、現状では日常生活で複雑な判断の必要性が多いこと、知的障害のある人とない人との不便さの共通性等、調査で得られた様々な視点を踏まえる必要があります。

特に不便さの共通性については、インタビューを通して、「それは私に当てはまる。私にも当てはまる。」「それは誰もが思っている。」ということが度々ありました。例えば、「駅の自動改札が急に閉まった時に、知的障害者はパニックになる人が多い。」という話を何度か伺いました。朝のラッシュ時に自動改札の扉が閉まった時の感覚は、知的障害がない多くの人々は、パニックこそ起こさないけれど、相当大的なストレスになっていると思います。知らない土地でバスに乗ろうとして、乗る扉が前か後ろかわからなかったり、運賃の支払方法にドキドキしたあげく、運転手に叱られた経験を持つ人は少なくないと思います。ボタンが多過ぎてほとんどの機能が使いこなせない電化製品についても、多くの人に当てはまると考えられます。

このように、日常生活において、もう少しやさしい（優しい&易しい）社会が実現することによって、知的な障害がふだんの生活の中で、今のようなハンディがなくなることで、まだまだたくさんあると

考えられます。逆に、「知的な障害に対する配慮のある社会は、誰にでもやさしい社会でもある」ことを確信する調査にもなりました。

知的な障害がある人自身の意見をもっと聞きたい、日頃から障害と関わっていない立場の人々にも不便さや配慮について、働きかけをしてみたい、と構想は大きく膨らみますが、焦らずに今後も活動が続けていきたと考えています。

検討に加える項目として

限られた時間と慣れないインタビューという形式のため、日頃の不便さを十分に伺うことができなかった点を考慮して、今回の調査では意見を伺うことのできなかつた、重要と思われる以下の不便さについても、今後、調査する必要性が考えられます。（）内に解決案を試案として提示してあります。

生活全般

- ・自分の気持や考え、経験したことを、周りに分かるように表現できないことが最も不便。
- ・他の人の言う事やする事が、十分理解できず、誤解したり不安になったりする。

（気持や、考え、経験したことなどを、本人が話さなくても表現できる機器があれば。）

衣生活

- ・靴を合わせるのが難しい。

（履くだけで、フィットしているかどうか分かる計測器があれば。）

食生活

- ・調味料など適量かけるのが難しい。

住生活

- ・家電製品の多機能化で、操作が複雑になり分かりにくい。リセット操作がわかりにくい。
昔の洗濯機は使えたが今は使えない。
- ・デジタル表示では、大小・強弱・高低の判断できない。
- ・電気・ガス類・薬剤など、目に見えにくい危険が分からない、無防備。
- ・一人で留守番できない

医療・衛生・健康

- ・体調不良や怪我の状態を表現できなかつたり、治療が怖いために訴えず、病気や怪我の発見が遅れたり重症化する。
- ・注射や検査を怖がって拒否したりするので、受診が困難。
- ・歯科治療を怖がり、悪化したり、全身麻酔での治療になって、体に負担かかる。

(歯科治療・検査・注射など、ストレス少なく出来る機器。)

- ・服薬の管理が出来ない。体調が悪いときたくさん薬を飲もうとした。
- ・歯磨きや爪切り、髭剃りが上手に出来ない。いつも手助けが必要。

余暇

- ・お金の計算が出来ず、ショッピングが一人では出来ない。

(知っている店で、決まったものなら買えるが、知らない店では難しい。)

- ・テレビを楽しむが、ドラマの何でもないけんかの場面から、不安定になってしまったり、展開が複雑でよくわからなかったり、ちょうど良い番組を探すのが大変。
- ・安心して見せられるチャンネルがあると良い。

(知的障害者に対応した、分かりやすいニュースや天気予報・余裕のある旅情報の提供。高齢化に向けた、共用品・共用サービスの情報提供も含めて。)

- ・ゆっくり解説してくれる料理番組や趣味講座
- ・展開の分かりやすいドラマ
- ・ふり仮名付のイベントや各種情報

(サークル等の紹介、ふり仮名付の本、気兼ねなく鑑賞できる音楽会や芝居の紹介等。)

5 調査回答

(1) 知的障害者本人

(1) 知的障害者本人

Q.1 「日常で利用する交通手段での不便さは何ですか？」

A) 一般企業勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●車いすの方が困っているのをよく見かけるが、以前手を貸したら嫌がられたので、それ以来手を貸そうと思うがしていない。自分自身はあまり困っていることはない。
B) 福祉作業所通所	<ul style="list-style-type: none"> ●バスは危険が多い。バスカードを入れようとした時に走り出される。バスの走り方が速くて事故の不安がある。不便さよりも怖さを感じる。 ●バスの定期は赤線が引いてあるので、人に見せたくない。普通の定期を使いたい。
C) 授産施設通所	<ul style="list-style-type: none"> ●現在は徒歩か自転車なので、不便なことはない。 ●以前の仕事の時はバスで通勤していたが、バスが事故渋滞で動かず、困った時があった。
D) スーパー勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●あまり感じないが、通勤時にバスの乗り換えが多く、不便さを感じる時がある。 ●通勤で2社のバスを利用するが、バスカードが違うのが不便。 ●乗ろうと思ったバスに、直前で行かれてしまう事があり、腹が立つ。
E) 工場勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●通勤電車がすぐに満員になるうえに、駅間が長いため、乗車中に気分が悪くなった時などは困る。 ●通勤電車の本数が少ないのでラッシュ時は増やしてほしい。 ●電車の定期は、100km以上でないと障害者割引が適用されない。 ●バスは3割引きになるが、定期の(障害)マークがイヤ。

Q. 2 「交通手段で移動中の不便さは何ですか？」

A) 一般企業勤務	●駅の大きな案内板が漢字だけなので不便。
B) 福祉作業所通所	●車いす使用时、病院の中は良いが、外に出ると不便なので車いすでないほうがいい。
E) 工場勤務	●旅行が好きで地方によく行くが、バスの所要時間が長いと、トイレに困ってしまう。 ●所要時間が長いと、酔ってしまうこともあるので困る。

Q. 3 「移動した先の目的地での不便さは何ですか？」

E) 工場勤務	●知らない人ばかりだと気を使い、移動中にワイワイガヤガヤできない。 ●電車で席に座ろうと思っても、他の人が来ると遠慮して座ることができない。 ●障害者割引使用時に、駅員に「本当に障害者？」と聞かれた。 ●目的地に着いてからは、知らない人に声をかけられて不安だった。
---------	---

Q. 4 「勤務地での不便さは何ですか？」（不便な場所については、勤務地に特定した。）

A) 一般企業勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●深夜勤務のため、他人と会わず自分のペースで仕事ができるが、ずっと無言でいるのもイヤ。 ●横文字があると、文字が読めなくて困ったり、他人に読めないと思われるのでイヤ。その都度調べている。
B) 福祉作業所通所	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事場にあまり友人がいない。深い話をできる人がいない。 ●職員にも本当の気持ちが伝えづらい。 ●本当は職場の職員に言わなければいけないのに、遠慮して一人で考え込んでしまうことが多い。
C) 授産施設通所	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事中に邪魔をする人がいる。難しい仕事をしているときに声をかけられるとわからなくなる。
D) スーパー勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●人員削減で日中が人手不足。 ●学歴のある他の従業員に、いつまでも指導を受けたり、注意を受けたりするのは腹が立つ。
E) 工場勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●会社の階段が急なため、暗くなってからは怖い。手すりにつかまらなると降りることができない。 ●機械の電源が2つあり、付ける順番がわからない。上司が会議中で戻ってくるまで待つので困る。 ●配線が床にさかれていて、歩く時や床に置いた荷物をずらすときに困る。 ●昨年までもう一人の知的障害の人が働いていたが夏に辞めてしまった。 ●給料の差別があった。 ●年齢が下の方のため、まわりに気を使いストレスがたまる。 ●あとで陰口を叩かれることがイヤなので、話すことにも気を使う。 ●従業員の半分は自分の陰口を叩いている。 ●安定剤の服用のために眠くなるが、それを悪く言う人もいる。

Q.5 「一人で行動する時の不便さは何ですか？」

A) 一般企業勤務	●駅員の対応が良い。駅を降りてから、目的地までの行き先を聞いても、説明が不十分でよくわからない。わからないため戻って再度聞いたところ、「何で、わからないんだ!」と言われた。
B) 福祉作業所通所	●バスが混んでいる時に、運転手に手を触られるなどの嫌がらせをされたことがあり、イヤだった。
C) 授産施設通所	●待ち合わせができずに一日つぶしてしまうなど、困ったことがあった。教えられた待ち合わせ場所が、名称が曖昧だったり、間違っていたりすることがあった。
D) スーパー勤務	●バス会社に苦情の電話をしたが、まともに取り合ってもらえなかった。
E) 工場勤務	●バスの運転手に「バス乗車割引証」見せたら、何度か「わからないから手帳の写真を見せろ」と言われた。文句を言いたかったが、一人だし、他の乗客も大勢いたので言うことができなかった。

Q.6 「家の中での不便さは何ですか？」

A) 一般企業勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●自分あまり不便さを感じない。 ●身体障害の人は、センターのトイレのトイレットペーパーが使いづらいと思う。
B) 福祉作業所通所	<ul style="list-style-type: none"> ●一人で家にいるときに不安。 ●宅配便やセールスなどの人が来た時に「親がいない」と言っても、「渡すものがあるだけだから」と言われ、どうしてよいかわからなくなった。いきなり入れられそうになったこともあり怖かった。
C) 授産施設通所	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットデッキなどは、わかりやすいものを選んで購入する。ゴチャゴチャとスイッチが付いているものや、しばらく使わないと使い方がわからなくなるようなものは、使いづらい。 ●ビデオデッキは、録画をするのが苦手。 ●家で家電が新しくなると、覚えるのが大変で、しばらく使い方がわからないことが多い。
E) 工場勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●家で一人でいるときに、急に集金の人が出て、どうしてよいかわからず困った。

Q.7 「とても便利だと感じるものは何ですか？」

A) 一般企業勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話は便利。でも、どこに行ってもつかまるからイヤ。
B) 福祉作業所通所	<ul style="list-style-type: none"> ●バスカードは便利。通常料金を払っているが、愛の手帳を見せなくても良いので気が楽。 ●ワープロは便利だが、ローマ字がわからない。
D) スーパー勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話は、待ち合わせ時にとっても便利。

Q.8 「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

E) 工場勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●バスに乗るときに、手帳を見せるだけだと割引にしてくれず、「すみません」と声をかけないとやってくれない。イヤな顔をされることがある。 ●バスの運転手や駅員の対応を改善してほしい。
---------	--

Q.9 「その他に不便さを感じるものは何ですか？」

B) 福祉作業所通所	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットをしてみたいが、間違っって危険なサイトを開いてしまいそうで怖い。
E) 工場勤務	<ul style="list-style-type: none"> ●ワープロは打つ文字がどこにあるのかわからず、探すのが大変。 ●インターネットをやってみたいが、料金が不安。 ●電子レンジとオーブンが一緒になっているものを使っているが、切り替え方がわからない。 ●メニューを使おうとしても、使い方がわからない。 ●家電のマニュアルは、どこを説明しているのかがわかりづらい。 ●各ボタンなどに、番号を明記して説明してくれるとわかりやすい。

5 調査回答

(2) 保護者

(2) 保護者

Q. 1・Q. 2「日常で利用する交通手段での不便さ・移動中の不便さは何ですか？」

<p>A) 26歳 簡単な会話 授産施設</p>	<p>●徒歩で通勤。自転車で行く時も。●自転車では信号無視や蛇行運転等がある。●幼少時、線路を歩いて電車を止めた。●踏切などで信号無視で事故を起こしてしまうなどの例を聞く。●バスの支払い方法を統一して欲しい。●電車など乗り換えでも通用する共通カードがあると便利。●プライベートカードの残高が確認しやすいとよい。●介護がつけられるトイレがあると良い。●トイレの鍵がわからず出られないことがある。</p>
<p>B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設</p>	<p>●外出は必ず親が付き添う。都心で車が多く女性なので心配なため。●バスでは一番前の席にこだわる。●小さい子を見ると名前を尋ねる。●葬式や七五三などの様子を見るといちいち声をだして確認する。●彼らの障害は、物理的なことより、行動に問題が生じると思う。周りがどういふサービスをするかが大切。●電車の中で、とても時計が好きな子が女子学生の腕時計を触り、ちかんと間違えられそうになった。●バスの精算の仕方を統一して欲しい。●自動改札の矢印（縦、横）を統一して欲しい。●駅の改札口の矢印の向きが場所によって違う。●切符の券売機が場所によって異なるのは困る。</p>
<p>C) 26歳 自閉症 簡単な会話 自宅手伝</p>	<p>●薬が合ってトラブルが減った。●一人で自転車で外出するのが好き。●以前警察から質問されて家に問い合わせの電話が来た。●困ることは行き先の途中までしか行かない電車。●興味の対象へのこだわり（吊革の形や連結器を見る）●電車内で平気で他人に話しかける。●電車の中をラッシュの中でも平気で歩く。●知らない人からだまされないか心配。</p>
<p>D) 26歳 一方的な会話 自宅</p>	<p>●自転車が好き。車に追突され、相手の「大丈夫ですか？」の問いに、障害の特性から「大丈夫です」とオウム返しで答えてしまい困った。●ダフ屋のチケットの勧誘等で、聞かれたら「欲しい」と答えてしまいそうで怖い。●お金をとられる心配。●しゃべれると被害が多くなる心配がある。</p>
<p>E) 17歳 会話難 手帳2度</p>	<p>●小さいころは、自動車や電車等から降りると、まだ乗りたいくてぎゃーっと奇声を発したりして大変だった。●スクールバスに乗る場所まで路線バスを利用したが、混んでいる時には立つ等が身に付いた。●電車の前か後ろに必ず乗る。●窓にべたっと顔を付けて見ている。●小学生の頃、駅ホームの非常ボタンを押してしまい、本人も驚いた。結果的には一つの経験になり良かった。●不便でも、失敗してそれを学習することもある。</p>

Q. 1・Q. 2「日常で利用する交通手段での不便さ・移動中の不便さは何ですか？」

<p>F) 36才 手帳4度 福祉作業所 簡単な会話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バスの車体広告で路線を間違えて混乱する。 ●割引きは子供料金でと言われても、子供料金でなく大人料金で買ってしまふ。
<p>G) 26才 自閉症気味 手帳3度 福祉作業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バスを3区間ぐらい一人で乗る。 ●好きな広告のバスでないと乗りたくない。●座りたい場所がある。●バス停名や電光掲示をひらがなで書いて欲しい。漢字が読めない。●車内放送を聞いて降車ボタンを押す。押すタイミングにこだわる。●駅改札が閉ってしまうので恐くて通りたいがらない。●駅ホームで隙間に落ちた。混んでいると下を見る余裕がない。
<p>H) 29才 手帳2度 生活実習所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一人では利用しない。 ●不便を感じない。本人も手伝いがあるので不便を感じていない。●行動が遅くても普通と思えば不便と思わない。●人の流れにのれない。一人になったらどうなるか分からない。●道路の舗装や建物の色の違いで歩きにくい。フラットでも恐怖心がある。●長い階段を降りるのは大変。動きやすいための色の違いや段差で立ち止まる。●待つのは苦手。
<p>I) 28才 自閉傾向 手帳3度 会社勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一人で好きに利用している。 ●駅ホームドアがないと転落や人を転落させないか心配。●時刻表を読むことが好き。ルート情報に詳しい。一人で勝手に乗っていく。●エレベーター等の警報ボタンを押してしまう。
<p>J) 30才 ダウン症 手帳2度 授産施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バスを一人で利用する。 ●バス停が移動した時にトラブルがあった。●障害者割引きだが子供ランプが光る。●乗物カードは割引きがなくて不便。●信号機が見つらい時に危険。高さがやや高い。(歩行者用信号機) ●事故の時には話せないで心配。親が見ていないと弁明できない。説明ができない。●少しの段差でつまづく。降りる時は慎重になる。●重いドアの開閉は力がないと怖い。回転扉は挟まりそうで怖い。

Q. 3 「移動した先の目的地での不便さは何ですか？」

<p>A) 26歳 簡単な会話 授産施設</p>	<p>●スーパー等の通路が狭い場所で、好きな所に立ったままで、周りの邪魔になったりする。●特定のドラッグストアに行くのが好き。●非常ボタンや消火栓のボタン等が好きで、誰でも押せると困る。●トイレに入って中から鍵をかけて出てこれないことがある。●最近では身障用トイレも一般の人が使えるようになった。小さい子供のいる母親等は便利ではないか。</p>
<p>B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設</p>	<p>●娘のトイレでのトラブルに父親が介助に入れない。 ●トイレの扉が開かず、本人が困っていても「助けて」と言えない。</p>
<p>C) 26歳 自閉症 簡単な会話 自宅手伝</p>	<p>●旅行で途中トイレでトラブルが起きた時に、異性の家族が入って行けない。 ●トイレが小さい頃から嫌い。</p>
<p>D) 26歳 一方的な会話 自宅</p>	<p>●旅館での入浴やプールでの着替えの介助に入れず困る。</p>
<p>E) 17歳 会話難 手帳2度</p>	<p>●プールでの更衣。係の人に断って別の部屋で着替えを手伝っていたが、別の管理人から健全の人と思われて注意され、改めて説明して気まずい思いをした。 ●障害の特性から、外見から障害者と見られにくい。 ●表示など統一されたデザインにしてほしい。</p>
<p>I) 28才 自閉傾向 手帳3度 会社勤務</p>	<p>●その場の一般の人と一緒に溶け込むことができない。 ●一人で待つと奇声をあげたりする。 ●映画では暗くて声をあげた人もいた。</p>

Q. 4 「不便な場所はどこですか？」

A) 26歳 簡単な会話 授産施設	●ファミリーレストランで「こだわり」や常同行為があつて、他のお客の目を気にして困つた。●天井が高くて広いレストランでは、音が吸収されて、そういった行為が目立たなかつた。家族の立場からするととても助かる。
B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設	●レストランでの奇声はとても辛い。●赤ん坊の音が嫌いで、赤ん坊がいるとわかるとすぐに外に出てしまう。●レストランの中でも、ちょっと他とは離れた空間に座れて、周りを気にしなくてすむようなところがあるとよい。
C) 26歳 自閉症 簡単な会話 自宅手伝	●親と一緒にいると窮屈に感じるようである。 ●今は普通のレストランに入ろうとは思わない。 ●レストラン等は個室の方が本人にはよい。
D) 26歳 一方的な会話 自宅	●声。家の中でも、本人の声のことで隣近所を意識してしまう。 ●食事に行った時に混んでいて相席になり、声のことで怒ってしまった。
E) 17歳 会話難 手帳2度	●外出は楽しみ。 ●外食時、自分が食べてしまった後、待つのが大変。 ●多少お金を出してもよいから、個室のような所があると良い。
F) 36才 手帳4度 福祉作業所 簡単な会話	●障害者トイレにはカギがついて使えないことがある。 ●携帯電話が普及して、公衆電話が少なくて不便。
G) 26才 自閉症 気味・手帳3度 福祉作業所	●外のトイレを使わない。使いたがらない。 ●水の中だと心配。
I) 28才 自閉傾向 手帳3度・会社勤務	●コンサートに本人は行きたいが、周りが行かせない。

Q.5 「一人で行動する時の不便さは何ですか？」

A) 26歳 簡単な会話・授産施設	●500円を持たせて外出させたが、電車のキップが買えず家に戻ってきたことがある。
B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設	●友達の本に行くことはない。●親戚の本に行くとき、着いた途端に「いつ帰りますか？」が気になる。●買い物に行く予定が決まると、朝の5時半から用意している。買い物に行かなければ、という意識。●買ったらすぐに帰ろうとする。●買い物に行ってもレジに入る直前に商品を入れる。
C) 26歳 自閉症 簡単な会話 自宅手帳	●ただ目的の駅に行って改札を出てすぐに帰ってくるだけ。一人で乗りに行って帰ってくる。●迷子の心配はない。●以前、困ったときのために500円を持たせたことがある。ひもで結んで財布を持たせたりした。 ●自分でしっかりとしまうことが難しい。
D) 26歳 一方的な会話 自宅	●買い物は好きでよく行く。●お金を多く持たせると全部使ってしまう。 ●キップの買い方で困ることは、機械等の買い方がしょっちゅう変わるので不便。●券売機のタッチ式でも反応が鈍くて、押してもうまく動かせないことがある。
G) 26才 自閉症 気味・手帳3度 福祉作業所	●宗教の勧誘等に声をかけられると何をするか分からない。 ●お金がなくても商品を勝手に予約する。
H) 29才 手帳2度 生活実習所	●本人が目標を持って行くことはない。 ●一人では出せない。●一人では出られない。いつも一緒にいるので不便さが分からない。●親がいない時にどうなるか分からない。
I) 28才 自閉傾向 手帳3度・会社員	●どいてと言われてどけないため、誤解される。
J) 30才 ダウン症 手帳2度 授産施設	●話しができない分安心。●お金を持っていない時に買えないと言われて走って帰ってきた。●買い物で大きいお金から出す。(お札から) ●旅行先で急に欲しいモノが出る。

Q. 6「家の中での不便さは何ですか？」

<p>A) 26歳 簡単な会話 授産施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子供の頃、衣服の前と後ろの区別が分かりにくいことがあった。ボタンつけ、はずし、靴下の区別など。 ●トイレにある風で手を乾かす機械の音を怖がる子供を見たことがある。 ●靴をはくのが不得意の人もいる。靴べらを使わなくても履きやすいように、かかとに引っ張りがついているとよい。大人用にもつけてほしい。
<p>B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家の中では問題なし。 ●クリーム類の区別なども理解している。 ●着替えもあつという間にすばやくしている。 ●人が使っている掃除機の音を嫌がる。 ●施設で他の人の下着を着てしまった。理由を聞くと「自分のが汚れるから。」 ●暑さ、寒さ等の気候に合わせた、長袖、半袖等の着こなしが困難。 ●目が覚めた時が朝だと決めてしまい、夜の11時に起きても洋服に着替えてしまう。
<p>C) 26歳 自閉症 簡単な会話 自宅手帳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●くつ下の左右。 ●2月になると必ず半袖に替える。 ●ちょっと汗ばむとすぐに着替える。衣服を1回でも着ると、すぐに洗濯しないと気がすまない。 ●お風呂に何度も入る。 ●靴のつま先をいつもたたいてしまい、すぐに靴がだめになる。 ●電話、勝手にかけてしまうので隠している。 ●ひげそり。鏡を見ないのでうまくできない。
<p>D) 26歳 一方的な会話 自宅</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●掃除機の音は嫌い。「止めて」と言う。 ●季節に合わせて衣服の調節が困難。 ●シャンプーの使い過ぎ。適量がわからない。
<p>E) 17歳 会話難 手帳2度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレの洗浄便座。いつまでも水をジャージャー出している。何度か使うと出なくなると良い。 ●歯磨きチューブ等は、たくさん付けすぎる。1度に1回分しか出ないようにする等の工夫ができない。

<p>F) 36才 手帳4度 福祉作業所 簡単な会話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●適度な加減が難しい。
<p>G) 26才 自閉症気味 手帳3度 福祉作業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●シャンプーとリンスを間違える。 ●シャンプー等の量加減が難しい。 ●鼻毛切りは回るのは恐くてだめ。 ●スポーツ紙にふりがながないので読んであげる。
<p>H) 29才 手帳2度 生活実習所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ちょうど良いサイズの靴を買うのが難しい。やや大きいサイズになってしまう。 ●本人が良い悪いと言えない。 ●風呂でつかまるものがなくて立ちにくい。 ●食事療法の時にトイレ用洗剤を飲もうとした。
<p>I) 28才 自閉傾向 手帳3度 会社勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ名前の洗剤で、風呂で使えるものと使えないものがあり、間違えやすい。
<p>J) 30才 ダウン症 手帳2度 授産施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大人用にはゴム入りズボン、前フックがなくて困る。うまく履けない。ボタンよりもフックが良い。 ●耳かきは怖がる。よいものがない。 ●指定の時間でアラーム、ブザーが鳴るものが欲しい。出かける時の合図として。

Q.7「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

<p>A) 26歳 簡単な会話 授産施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●充電式の電気かみそりを使うが、すぐに充電しないと気が済まない。バッテリーがすぐに無くなる。 ●店でのスタッフの対応。マニュアルにより本人に質問されると困ってしまう。 ●ファミリーレストランのメニュー等は、指さしで決められる。 ●コンビニエンスストアは、利用しやすい。
<p>B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●薬用フィルム（にきび等の皮膚の部分に貼る。透き通っていて目立たないため、貼ってもこだわらなくて済む。絆創膏はとてもこだわる。）
<p>D) 26歳 一方的な会話 自宅</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ファスナー付きのポケットがあると、余分に入れられる。
<p>G) 26才 自閉症気味 手帳3度 福祉作業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●野球場やカラオケボックスは騒げるので、好んで出かける。ストレス発散の場になっている。 ●ヒモのない靴は履きやすい・履かせやすい。マジックテープが良い。 ●てんかん発作を本人が予知できると良い。 ●ふりがながある本は一人で読める。
<p>H) 29才 手帳2度 生活実習所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●直接かかるテレホンカードは便利。他人に貸してトラブルがあった。 ●ズボンにゴムの入っているものを探す。
<p>I) 28才 自閉傾向 手帳3度 会社勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大江戸線は各駅毎に内装が違うので気を使っているようで良い。 ●テーマパークで待つことができない人は、並ばなくても良いサービス。 ●マチのあるポケットがたくさんあるバッグは仕分けしやすい。
<p>J) 30才 ダウン症 手帳2度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●旅行ツアーは、親は必要だが特に問題はない。

Q.8 「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

<p>A) 26歳 簡単な会話 授産施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●PHSの位置情報を知らせるサービスが普及して欲しい。 ●駅名の表示が見えにくい。 ●最近、公衆電話が減ってきて困る。 ●バスや電車の行先表示等は、もっと見やすく分かりやすくしてほしい。大きい字や、写真の活用等。 ●最近のバスは、車体前面が広告となっていてわかりにくい。
<p>B) 28歳 自閉症 手帳3度 生活施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「ユニバーサルデザイン」や「バリアフリー」等の言葉が流行っているが、日本では言葉の意味が曖昧。欧米では定義がはっきりしているのではないか。 ●「それは大変ですね。」という特別な配慮という感じがある。
<p>D) 26歳 一方的な会話 自宅</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●急行と各駅電車の区別がつかない。行き先の表示等が分からない。
<p>E) 17歳 会話難 手帳2度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●公衆電話は無くさないでほしい。学生時代は、学校近くの公衆電話から「今から帰ります」という電話の練習をしたりしている。 ●携帯電話はお金がかかったり、危険性があったりしてまだ抵抗がある。
<p>G) 36才 手帳4度 福祉作業所 簡単な会話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ビルでエレベーターが欲しい。

5 調査回答

(3) 援助者

(3) 援助者

Q. 1・Q. 2「日常で利用する交通手段での不便さ・移動中（通所）の不便さは何ですか？」

<p>A) 通所授産施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バスの識別（行き先）が難しい。 ●バスが混んでいて、手際良く降りることができない。万一普段と違うところで降りてしまった場合、次の行動が判断できない。 ●どこかに自由に行きたい人もいる。駅の改札が自由に通れてしまうが、止めてほしい時もある。 ●定期券は使いやすい。 ●療育手帳の紛失は多い。半額切符と手帳を同時に見せる等、同時に2つの作業は難しい。 ●自転車での通所者の中には、運転技術には問題はないが、周りの人との関わりができずに、高齢者とぶつかったこともある。 ●通所途中で中学生にいじめられたり、男性につけられた女性もいた。 ●何か問題があっても、後から偶然わかることが多い。
<p>B) 通所更生施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどが送迎車を利用。 ●送迎車が迎えに行く場所までは必ず家族が送りに来ている。 ●家族が施設まで送ってくる方も若干。 ●ワゴン車のステップが高いため、転んだりしないよう皆の乗り降りに気を使う。 ●ひとりで行動することはないので、公共交通機関の券売機などは使う機会がない。 ●最近の券売機のタッチパネルは押した感覚がなく、押し甲斐がない。
<p>C) 地域生活援助センター職員（相談業務）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人とのコミュニケーションが難しい。例えば、定期券を障害者割引（半額）で買う時に、窓口で障害者割引で買うことを説明せずに、ただ単に「半額」ということだけを主張してしまう等。 ●某バス会社の障害者割引は定期券に大きく赤い斜め線が入っている。周りに伏せたいのに目立つのは困るという人もいる。 ●一見して知的障害と判別できない人も多く、改札で半額（子ども）料金で、すんなり通れないこともある。

Q. 2 「（施設からの外出・宿泊等の）交通手段で移動中の不便さは何ですか？」

<p>A)</p> <p>通所授産施設職員</p>	<p>●公共交通機関では、周りの人との関係が難しい。たとえば、バスで席が空いたらサッと座る、いちばん前の席に座りたい時、他の人が座っていても座りたくなる等、一般社会のマナーを守れないことがある。●目的地まで切符を買うことは、様々な判断が必要なので難しい。乗物カードは切符を買うことが難しい障害者にとっては大変便利。しかし、障害者が割引きにならないので、改善して欲しい。●一番困るのは、行方不明。最近では携帯電話の位置情報サービスがあり、便利になった。</p> <p>●法律の解釈もあり、交通各社がまちまちのサービス内容になっている。駅員による対応の違いは改善してほしい。</p>
<p>B)</p> <p>通所更生施設職員</p>	<p>●切符ひとつを買うにしても、障害者のためのサービスが統一されていない。JRと私鉄でも違い、同じ路線でも駅員によって対応が違う。駅員への知識の浸透・徹底がされていない。</p> <p>●信号の歩行者青の時間が短いため、渡りきれない。</p>

Q. 3 「（施設からの外出・宿泊等の）移動した先の目的地での不便さは何ですか？」

<p>A)</p> <p>通所授産施設職員</p>	<p>●行きにくいのは、コンサート等大きな声を出してはいけない場所●行きにくさは2種類「まわりに嫌な顔をされる」と「まわりに迷惑をかける」</p> <p>●「まわりに嫌な顔をされる」のは、職員は仕事と割り切れれば平気。しかし、「迷惑をかける」場合、コンサート等でこちらが大声を出すことで、他の人がそこに来た目的を果たせない場合は、行きにくい。●食事は、上品なところは入りにくい。</p> <p>●食事のバイキングも「適量」が難しく行きにくい。</p>
<p>B)</p> <p>通所更生施設職員</p>	<p>●車いす用トイレがない。●スロープがない。●トイレが和式しかない。</p> <p>●ファミリーレストランは、1Fが駐車場で2Fが店舗のため、階段だけの建物が多い。●騒いではいけないところは入りにくい。</p>
<p>C)</p> <p>地域生活援助センター職員（相談業務）</p>	<p>●ホテルのオートロックは理解しづらい。●本人達だけでの利用の場合、「暗黙のルール」が存在する場所は使いにくい。●自分のペースでできない場所、集団性が求められる場所は得意ではない。</p>

Q. 5 「一人で行動する時の不便さは何ですか？」

B) 通所更生施設職員	<ul style="list-style-type: none"> ●ひとりで行動することはまずないが、万一行方不明になったときに、探す手段は欲しい。
C) 地域生活援助センター職員（相談業務）	<ul style="list-style-type: none"> ●だれかに聞かないと解決できないことが多い。家族以外の問い合わせ先があるといい。（家族に言うと、心配から、反対されたり行動を止められたりする） ●携帯電話は役立っている。その場で自分を理解している人に連絡がとれ、お店の人とトラブルになっている場合、お店の人とその理解者が話すこともできる。 ●レストランで数人で食事をして、まとめて払わなければいけない時。割り勘であればできるが、誰が何を食べたからいくらで、というような難しい計算は苦手。また、自分はほとんど食べていない時に、その場では割り勘になってしまった場合等の対処方法が難しい。 ●支払いのことでトラブルになっても、また同じお店に行く。 ●話し相手が欲しいため、例えば、駅前で映画館の勧誘について行ってしまふ。 ●市民レベルのサークルに入る場合に、続けていくためには、中に理解者がいないと難しい事が多い。理解できないことが続いて、そのままになってしまうと、技術にも差がついて、本人が面白くなくなってしまう。 ●誰かの相談にのっていたら、深夜になってしまい、終電に乗れずタクシーで帰った。そのタクシー代の一部は、相手が負担するべきではないか。

Q.6「家の中（通所施設）での不便さは何ですか？」

<p>A)</p> <p>通所授産施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレでトイレットペーパーを詰まらせる。「適当な長さに切る」判断が必要だが、「適量」の判断が難しい。 ●ロッカーの鍵をなくすことが多い。 ●着替えが散らばってしまう人もいる。 ●座り込んでしか着替えられない人もいる。 ●ロッカーが混み、着替え時に他の人とぶつかり、そのことで気持ちが萎えて嫌になってしまう人もいる。時間差等の工夫が必要。 ●作業には、ある程度の広いスペースが必要。静かな環境が必要な人等のため。 ●作業の道具には職員の工夫が必要。時間の管理をカードに書く、物に名前を貼りつけておく等。 ●時間の概念はわからない人も多いため、職員が工夫している。休憩時間は、周りの雰囲気認識している人が多い。 ●自分の食事をうまく運べない人がいる。お盆の上に食器すべり止めマットを敷いたり、ワゴンを使用する。 ●食事の盛り付けは分量の加減が難しい。
<p>B)</p> <p>通所更生施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレをふつうと逆向きで使う人も何人かいるので、その場合には洗浄便座の操作盤が邪魔になる。 ●食事時に、使いやすいスプーンを用意しても、どうしても手掴みになり周りを汚してしまう。 ●プールに行くと、楽しくて出たくなくなってしがみついてしまい、出てもらうのに職員が一苦勞する。 ●音楽を楽しむ人が多いが、一般にデッキが壊れやすい。

Q.7「とても便利だと感じるものは何ですか？」

<p>A) 通所授産施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カラオケボックスは、行きやすい。よく行っている。 ●テーマパークのアトラクションで、その場に並んで待たなくてもよいサービス。 ●行方不明の時に利用する携帯電話の位置検索サービス。 ●携帯電話は安心。知的障害者のご家族ももっと使ってみようという感じになるとよい。
<p>B) 通所更生施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ファミリーレストランは、サービスも建物の構造も均一化されていて、予想できるため使いやすい。 ●車いすの持ち運びが大変なので、小さく折りたためる車いすがあったら便利。 ●理解のある人がいることが大きい。お店でも、小さいことのようにだが、少しでも座りやすい場所やいすを用意してくれるとか、道で間違っ少し触れてしまっても、嫌な顔をしないとか。
<p>C) 地域生活援助センター職員（相談業務）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ファミリーレストランは、時間の制限もなく、コーヒー1杯で長時間いても嫌な顔をされず使いやすい。 ●よく行くのは、カラオケボックスやファーストフード等。 ●スポーツ施設も、ルールが理解できれば使っている人もいる。 ●携帯電話。仕事中でも、他人の一言で不安になったりすることも多い。その場合、人によっては、他の人に話すことで気持ちを一定に保つことがある。色々なことにトライして、トラブルになった時や判断できない時には必須。通話の費用がかさんでしまうこともある。最初の契約はご家族の了解をとる。持っていないと友達になれないほどの必需品。携帯電話によって、軽度の知的障害者は社会が広がった。自分の意志で能動的に行動できる。「自分たちで約束」が実現した。 ●「手話通訳」の知的障害者版。コミュニケーション通訳のような存在が必要。会議などで当事者参加が進められているが、言葉について、その言葉が含む実態を知らせないで、漢字にルビをふるだけで対処していることが多い。公務員試験なども、試験の問いの意味を通訳すれば答えられる知的障害者もいる。

Q.8「特に不便さを感じて、改善してほしいものは何ですか？」

<p>A) 通所授産施設職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関での障害者料金の明示と対応の統一。 ●携帯電話で料金がどんどん加算されてしまうのが怖いので、ライフライン的に使用する信頼できる電話番号は無制限で、それ以外にはある一定の上限を設ける機能。
<p>C) 地域生活援助センター職員（相談業務）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話のワンタッチダイヤル等でもっと大きいボタンや表示があってもいい。単純・明確は、高齢者にも使いやすいと思う。

参考資料

福祉用具の配慮

共用品・共用サービス化の配慮について検討を進める上での参考として、福祉用具における知的障害への配慮や、専門的な視点を踏まえることが望まれます。

福祉用具の配慮

(1) 福祉用具の前提—援助者の視点から

援助者等が知的障害者に提供する福祉用具や自助具は、様々な概念や複雑な技術に基づいて行わなければならない活動を、できるだけ「わかりやすく」「やりやすく」「自立して」行ってもらえるための用具です。

健常者が「あたりまえ」としてしまっている既存の概念や技術に基づいて、「できない」という見方をするのではなく、知的障害者の一人一人が持っている技術や獲得している概念に基づいて、その特性や能力を活かすことのできる支援を提供し、「できる」ものにしていくことが求められます。

つまり、福祉用具や自助具の提供に必要な視点は、「技術や概念がないために、行うことができない」ではなく、「例え既存の概念に基づかなくても、個人の特性や能力を活かす〇〇があれば、自立して同じ結果を出すことができる」と「捉えなおす」ことではないでしょうか。

用具の使用による自立は、本人の可能性を広げることに加えて、常に誰かから指示をされる煩わしさからの解放や、あるいは自分でやり遂げるといふ、達成感の獲得という意味からも重要です。

(2) 福祉用具・自助具と配慮点

知的障害者のための用具は、よりわかりやすいかたちにしていく必要があります。耳からの情報よりも視覚的な情報処理の方が得意であることが多いため、目に見えるかたちでわかりやすく情報を提示していく必要があります。

以下は、授産施設で実際に使用されている福祉用具・自助具の事例です。

1 キャッシュデスクプログラム

商品や金種の現物とピクトグラム（あるいは写真）を、「同じ物」を「同じ数」だけ選択することができれば、金銭概念が未獲得の方でもレジスター業務が可能な機器です。

ディスプレイ上にピクトグラムや写真で商品や金種が表示されたものを、オーバーレイ式キーボード（写真左）かタッチパネルディスプレイ（写真右）で選択し操作します。

お釣がある場合も、その金種がディスプレイ上に表示されるため、同じ物を選べば業務を行うことができます。



2 タイムログ

抽象的な時間の概念を視覚的にわかりやすくした、時間の経過の理解を促すものです。あらかじめ時間を設定し、時間の経過に伴って徐々にランプが消えていくことで、「あとどのくらい時間が残っているのか」「今やっていることを、あとどのくらいの時間続ければよいのか」といったことへの理解を促すことができます。



3 QHW

2と同様、時間の経過を視覚的に表示したもので、さらにタイムカードと一体化したピクチャーカードを組み合わせることで、1日の生活の「行動」と「時間」の理解を促すものです。

「15分という時間単位」を1つの黒いドット(●)に置き換えて点灯させ、このドットが設定した時間から徐々に消えていくことで、ピクチャーカードに示された活動の終了時間を具体的にわかりやすくしています。



4 ビーズを数える道具

ビーズの製品を製作する前段階として、ビーズを規定の数に仕分けするための作業の道具です。規定の数に数えるための数概念が未獲得の人でも、穴のあいている箇所にビーズを入れ(写真1)、全て埋まったら穴のあいている上蓋を開けてビーズを取り出せば(写真2)、数えるのと同様の結果が出せます。



(写真1)



(写真2)

5 紙の重さを量る道具

紙を、厚さ別に分類するための作業の道具です。「厚さ」というわかりにくい曖昧な基準では分類が困難なため、基準を「重さ」に変換（重い…厚め、軽い…薄め等）します。重さの分類の範囲を色別にして、具体的に色別にグラム数を示した分類表とデジタル表示の計量器（写真3）を使用します。デジタル表記された数字を色とマッチングさせ、同じ色の分類板（写真4）の上に仕分けし、同じように色分けされている棚（写真5）に収納します。

数字の大小の認識がなくても、同じ数字を「記号」としてマッチングさせ、さらに「色」という視覚的に認識しやすいものでマッチングさせることで、分類作業を可能にします。



(写真3)



(写真4)



(写真5)

資料提供

株式会社五大エンボディ（1～3）

Tel : 075-672-8400 E-mail : godai@mentek-godai.co.jp URL : <http://www.mentek-godai.co.jp>

社会福祉法人 武蔵野 知的障害者通所授産施設 ワークセンター大地（4, 5）

(3) 配慮点の海外事例

「知的障害のある人々への配慮」－機能障害のための専門的な試みの助言（ノルウェー・1989年）

コンロの使い方

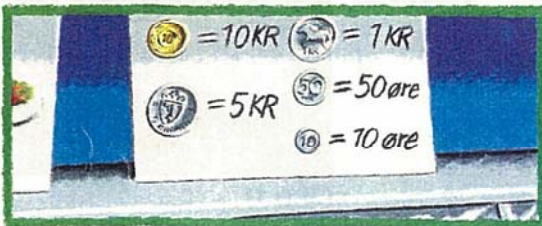


ちょっとしたことで、どのつまみとバーナーが一緒かわかる。

レストランで



メニューは、写真と値段で表示する。



お金は、絵と数字で表示する。



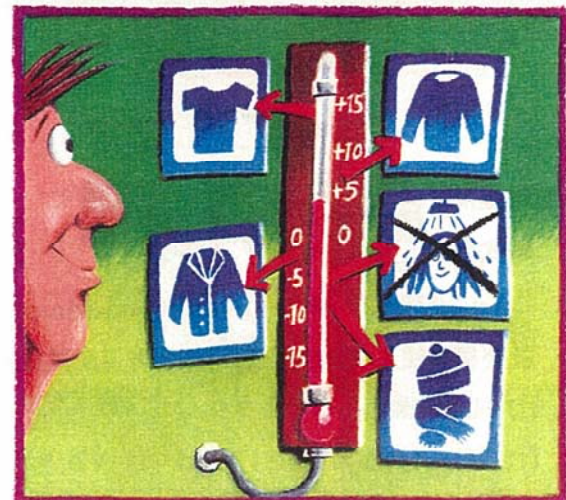
値段は、お金の絵と数字で表示する。

洗剤に印を付ける



洗剤に印を付けることで、どこで何をを使うかわかる。

外の気温を知って、何を着ればよいかわかる



屋外の気温を計る温度計に、絵や記号で気温に合った服を表す。

©SINTEF Unimed, Oslo, Norway

この調査は「日本児童教育振興財団」平成12年度の研究助成による。

知的障害者の不便さ調査
インタビュー調査のまとめと考察

発行日：平成13年3月30日 発行
平成15年10月1日 第2刷発行
発行：財団法人共用品推進機構
住所：東京都千代田区猿楽町2-5-4 OGAビル
電話：03-5280-0020
FAX：03-5280-2373
ホームページ：<http://kyoyohin.org>

制作：財団法人共用品推進機構
個人賛助会員の会 東京会議 知的障害班

禁無断転載・複写